

# 第11回「“宇宙（天文）を学べる大学”合同進学説明会」 報告

神 田 展 行<sup>1</sup>・渡 部 義 弥<sup>2</sup>・福 江 純<sup>3</sup>

〈<sup>1</sup>大阪市立大学 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138, <sup>2</sup>大阪市立科学館, <sup>3</sup>大阪教育大学〉  
e-mail: kanda@sci.osaka-cu.ac.jp

第11回“宇宙（天文）を学べる大学”合同進学説明会を、2018年6月10日（日）に大阪市立科学館にて開催した。説明する大学側、高校生ら学生、先生や保護者らの参加者ともに過去最多の参加者数となった。同時に行なっている天文講演会も含めて数多くの天文・宇宙ファンが聴講し、盛況な会であった。11年間での参加者は延べ800名を超え、説明会を聞いた大学への進学者も散見され、手ごたえを実感している。

毎年開催している本進学説明会ではあるが、今回はチラシ（A4サイズ）を作成し、大阪市大の社会連携課の資料発送に含め、過去のこの説明会での名簿を補填して近畿圏の高等学校460校余りに配布した。また大阪市立科学館でも200部を配布した。加えて同じ内容をWebにも掲載した。高等学校を通じてのアナウンスには、チラシがたいへん役に立ったようである。大学の社会（地域）連携の部署にご協力いただいたのは、宣伝の効果だけでなく教員の負担の点でも大いに助かった。この場を借りて関係各位には御礼を申し上げたい。また今回は、会の後半の天文講演会パートも、高校生を連れてくる年代の参加者を少なからずひきつけたのではないかと思われる。

参加大学は、愛媛大学理学部、大阪教育大学教育学部、大阪市立大学理学部、大阪大学理学部、大阪電気通信大学工学部、大阪府立大学生命環境科学域理学類、岡山理科大学生物地球学部、鹿児島大学理学部、関西学院大学理工学部、京都産業大学理学部、大阪産業大学、京都大学理学部、近

畿大学理工学部、甲南大学理工学部、神戸大学理学部、徳島大学理工学部、奈良教育大学教育学部、奈良女子大学理学部、兵庫県立大学天文科学センター、立命館大学理工学部、放送大学教養学部、以上に加えて、当日急遽参加となった岐阜大学工学部を含む22大学である。

説明会は、従来と同じ形式で、大学教員による紹介タイム（各大学による5分間のプレゼンテーション）を2部に分けて行い、その間にポスターセッション、最後に天文講演会（企画）を行った。プレゼンテーションとポスターセッションは例年通りではあるが、併用することで大学側と参加者のクロスセクションを十分に取ることに役立っている。

今年度は、前年度に比較して参加人数が大幅に増加した。受付記帳から、生徒（高校生ら）が113名、先生や保護者ら一般の参加者が61名であった。複数名で来場した高校生などはまとめての記帳もあり、最大数はこれを上回っていると推定される。会場は満員であった（図1）。会場の後ろは各大学のポスターが掲示され、ポスターセッション会場も兼ねている。例年と同じく、ポスターは会場の外にも掲示され、熱心な高校生が進学から研究のことまでさまざまな質問をした。科学館研修室は教室形式での定員が80名であり、今年度は机を撤去して対応したが、次年度もこの人数だとするとセッションなどのやり方を考えなければならぬ。

天文講演会パートでは、2018年3月に他界した



図1 大学紹介パート1の様子。ぎっしりすし詰めの満員御礼状態。高校生の熱気が伝わる。

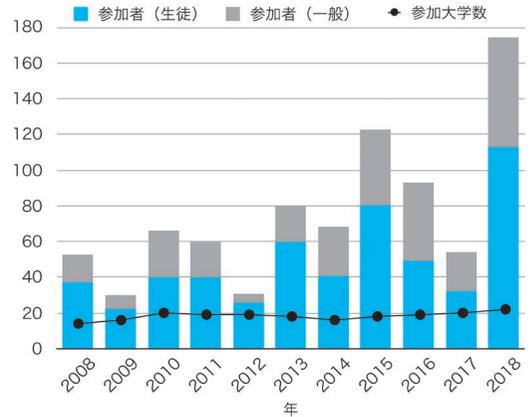


図2 参加大学数，参加者数の年次推移。

スティーヴン・ホーキング博士を偲び、石橋明浩氏（近畿大学）による「ホーキングのいたケンブリッジ」、長峯健太郎氏（大阪大学）による「巨大ブラックホールと宇宙の構造形成」の二つの講演で博士の業績，エピソードを紹介した。

2017年度の報告<sup>1)</sup>でも分析したが，この11年間の参加大学数と参加者数（全体と生徒）の推移を図2に示す。参加大学数は初回の14大学から微増して，おおむね20前後で安定しており，継続的な取り組みとして根づいていると言って良いであろう。参加者数は，いろいろな条件でかなり変動する。2018年度は前年度比ではかなり増えたが，過去にも会場定員（80）を超えたのが4回ある。

この合同進学説明会は現役の研究者20名以上の話が聴ける，天文学や物理学を志す高校生にとって絶好の機会であろう。次年度も開催すべく，すでに大阪市立科学館の協力で会場や日程を決めている。

今回も，休日にもかかわらず積極的に参加いただいた各大学の上手なプレゼン，賑やかなポスターセッションでのご説明に感謝したい。また，当日手伝いのお阪教育大学および大阪市立大学の学生にも御礼申し上げます。関係各位には，今後もいろいろなご意見やご協力を賜りたい。

### 参考文献

- 1) 福江純他，2017，天文月報110, 667